

ふみこの

チャレンジ通信

発行 山下ふみこ後援会『ふみことステキな仲間たち』

〒410-0022

沼津市大岡1556-2

TEL. 055-962-2509

FAX. 055-951-4855

NO. 3



赤字の本質は何処にあるの？



山下ふみこは
がんばります。

議会は
誰でも傍聴OK!



大きく取り上げた新聞各紙

失敗の原因は？
この事業の資金計画であった保留床が売れなかったことが最初の躓きである。その保留床が売れなかったために余分な負担をせざるえなかった。市街地再開発事業（街の中心の敷地を共同化しビルを建てること）の原点は必要となる事業費は補助金と保留床（ビルが建ち立体的になったこと

6月8日より第9回沼津市議会定例会が開かれました。今回で9回目の一般質問です。一部抜粋します。

議会報告

イーラde赤字1億1300万円

128億円	一般会計補助金(国・県)	18.7億円
一般会計補助金(沼津市)	26.1億円	
公共施設整備事業費(国)	7億円	
公共施設整備事業費(県)	20億円	
沼津市(4.8億円)		
工事費	88.1億円	
道路整備等		
保留床処分金(マシソン5等)	3.3億円	
駅前周辺総合整備事業(橋大等)	19.4億円	
その他	1.3億円	
事務費等	0.6億円	

で、新たに生み出された床の(こと)を売却することで賄う。したがって国の認可を受けた沼津市の収支計画通りに保留床が売却できれば、今対応を求められている課題「基金からの借入れの返済・テナント料の確保の維持」といった問題は発生していないはず。認可された施工条例の資金計画には、保留床処分金と明記され、保留床を処分して建設費を賄うはずが売れなかった。そこに沼津市として計画性の甘さがあったのではないだろうか。

赤字がおよぼす今後の影響

駅周辺総合整備事業の中で

疎開学園は沼津の財産

我入道の松林の中に市文化財蔵庫として使われている木造校舎がある。

昭和13年東京赤坂区が養護施設を建て、戦時中は疎開学園として赤坂区の子どもが集団疎開をした校舎であり、県の近代化遺産に掲載されている。子どもたちが過ごした戦争と言ふ歴史的背景を示す建物であり、その事実・記憶を次世代につなげる媒体としての歴史的・教育的な価値と、この地域は手本浜から御用邸までの観光コースであり、隣接する芹沢文学館とともに環境・観光的価値から、この多面的財産を理解し、その方途

イーラdeは核となる事業であったはず。そしてまちづくり会社は、核を支える重要な役割を担い、黒字経営を確保されなければ、基金への返済も確保できなくなる。基金への返済が滞れば、駅周辺総合整備事業にも支障が出てくる。



を求め検討してほしいと質問。教育委員会は、老朽化が進み公共施設として活用するには修復等多くの費用がかかるが、検討・研究すると答弁。その後、東京から新聞社が取材に来た。果たしてその波紋は……!!

市政相談受付中

TEL.055-962-2509

山下ふみこ

検索



山下ふみこのブログは携帯からもアクセスできます。

ホームページ <http://www.yamashita.fm/>
メール: mail@yamashita.fm

山下ふみこのホームページアクセス数
毎日1000件突破「ブログ大好評」!

21年度予算では、基金は額面では194億円からあるはずが、実際の現金は既に36億円しかない。総合的に考えると高架化を含む駅周辺総合整備事業・イーラde・まちづくり会社は相互に連関し合っているわけで、今後、沼津市にとってイーラdeの運営は大きな問題につながっていくと懸念する。

